

みすゞと泰男

宮坂静生

春荒れの篋金子みすゞかな
山川の眼下に噓ぶみすゞ忌へ
春夕焼追ひ転付きの旅鞆
消えかかる春の夕映とどめたし
引揚の仙崎港や霰餅
捕鯨船引揚船とすれ違ふ
鯨墓まで鯨唄ひびきけり
鯨墓にも幻の風車

おひみしま
青海島・鯨供養

鯨肉四角鯨は阿弥陀さま
鯨肉噛みるて昭和まだ終へず
頬白や満蒙棄民祖父のこと
シベリアの豆の種蒔きかづき香月泰男
花ミモザ一瞬一生と至言
葉牡丹の臺立つ三隅晴れ出すよ
田の泥の目鼻持たざる涅槃かな
「愛情」の壁画に春の風が吹く
三月の雨のひろがる泰男の地
あほーと春の裾やおもちや箱

ながち
長門市明倫小学校、香月描く

